

大阪経済大学経済学研究科 リサーチ・ルーブリック () 年度入学 氏名 ()

下の表は、あなたがご自身の修士論文、課題研究レポート、あるいは博士論文を自ら改善するのに役立てると同時に、指導教員による指導をより効果的にするために作られたルーブリックです。Aを最も質の高い水準、以下、B、C、Dと段階が設定されています。それぞれの項目に対してあなたの研究の現状に該当するものをA～Dから選んで○で囲んでください。また、そのように判断した理由について評価理由欄に記述してください。該当しない評価項目は評価理由欄に斜線を入れてください。これによって、より質の高い研究に到達するために必要なことが段階として分かります。研究の進捗状況の確認に定期的にご活用ください。

なお、修士論文、課題研究レポート、あるいは博士論文の提出時、このルーブリックによる自己評価を提出論文と一緒に提出してください。本研究科における合格基準は以下のとおりとします。

【修士論文】

①研究テーマの適切性、②情報収集の適切性、③研究方法の適切性、④論旨の妥当性、⑤論文作成能力、のそれぞれにおける全評価項目において、B以上をクリアすること。

【課題研究レポート】

修士論文の合格基準から、③研究方法の適切性における「研究目的の独創性」のみを免除。

【博士論文の合格基準】

①研究テーマの適切性、②情報収集の適切性、③研究方法の適切性、④論旨の妥当性、⑤論文作成能力、⑥学術的価値のそれぞれにおける全評価項目において、Aをクリアし、⑦の成果の公表においてC以上をクリアすること。

①研究テーマの適切性

評価項目	A	B	C	D	評価理由
研究テーマの学術的ならびに社会的意義や必要性	A 学位授与の方針に関連する学術的ならびに社会的意義や必要性の高いテーマが設定されている	B 学位授与の方針に関連する学術的ならびに社会的意義や必要性のあるテーマが設定されている	C 学位授与の方針に関連する学術的ならびに社会的意義や必要性があるとは言えないテーマが設定されている	D 学位授与の方針に関連する学術的ならびに社会的意義や必要性の無いテーマが設定されている	
意義や必要性の説明	A 学術的ならび社会的意義が明確に説明されている	B 学術的ならび社会的意義が説明されている	C 学術的ならび社会的意義がわかりにくい	D 学術的ならび社会的意義がわからない	
研究目的	A 何を明らかにしようとするかが明確に述べられている	B 何を明らかにしようとするかが述べられている	C 何を明らかにしようとするかがわかりにくい	D 何を明らかにしようとするかわからない	
研究課題の設定	A 仮説や調査項目がわかりやすく示されている	B 仮説や調査項目が示されている	C 仮説や調査項目がわかりにくい	D 仮説や調査項目が示されていない	
発展可能性	A より重要な研究へと発展することが確実なテーマである	B より重要な研究へと発展することが可能なテーマである	C より重要な研究へと発展する可能性の有無についてははっきりしない	D より重要な研究への発展する可能性の見込めないテーマである	

②情報収集の適切性

評価項目	A	B	C	D	評価理由
先行研究のレビュー	A 必要かつ十分な先行研究が評価された上で、単なる整理・分類に留まらず、研究目的に関わる論点が明確に整理されている	B 必要な先行研究が評価された上で、単なる整理・分類に留まらず、研究目的に関わる論点が整理されている	C 必要な先行研究が評価されているが、単なる整理・分類に留まり、研究目的に関わる論点が整理されているとは言えない	D 必要な先行研究の評価が不十分	
情報収集の適切性	A 研究目的の達成に必要なデータや資料を十分に収集している	B 研究目的の達成に必要なデータや資料をほぼ十分に収集している	C 研究目的の達成に必要なデータや資料を収集しているが、十分な量とはいえずらい	D 収集した量のデータや資料では、研究目的を達成できない	

③研究方法の適切性

評価項目	A	B	C	D	評価理由
研究目的の独創性	A 先行研究のレビューに基づき、当該論文の目的が独創的であることが明確に示されている	B 先行研究に当該論文と類似するテーマがないわけではないが、独自性を有すると認められる	C すでにほぼ同様のテーマの先行研究があるが、独自性を有するとも言える	D すでに、同様のテーマの先行研究が存在しており、独自性は認められない	
分析方法(研究方法)の適切性	A 研究目的を達成するために最もふさわしく、しかも当該分野における最高水準の分析方法(研究方法)を選択している	B 研究目的を達成するためにふさわしく、しかも当該分野における一定水準以上の分析方法(研究方法)を選択している	C 研究目的を達成するためにさらにふさわしい分析方法(研究方法)があり、分析方法(研究方法)は当該分野における一定水準に達していない	D 研究目的と分析方法(研究方法)が合致しておらず、分析方法(研究方法)の選択が間違っている	
結果の解釈	A 分析結果(研究結果)に対して客観的で公平な解釈をおこなっている。予想や仮説に一致しない結果も重要な結果として捉えている	B 分析結果(研究結果)に対して客観的で公平な解釈をおこなっているが、予想や仮説に一致しない結果は例外として処理している	C 結果の解釈そのものに歪曲はないが、一部に予想や仮説に一致した点だけを結果として捉えている箇所がある	D 予想や仮説に一致する結果だけを報告している、あるいは結果の解釈に一部歪曲が認められる	
データ・資料の管理保存	A 論文に使われたデータや独自資料は適切に保存され、論文提出後の照会や検証に耐えられる	B 論文に使われたデータや独自資料は保存されており、照会や検証にも対応可能である	C 適切に保存できていないデータや独自資料が一部存在する	D データや独自資料は保存できておらず、どこにあるか把握できていない	
研究倫理	A 研究に関わる倫理上の問題について、十分に考慮し、必要な対応を済ませた上で、研究活動を行っている	B 研究に関わる倫理上の問題について、十分な考慮と必要な対応を行いつつ、研究活動を行っている	C 研究に関わる倫理上の問題への考慮・対応が十分とはいえない	D 研究に関わる倫理上の問題について検討していない	

④論旨の妥当性

評価項目	A	B	C	D	評価理由
論旨の一貫性	A 論旨あるいは論理の展開が一貫している	B 論旨あるいは論理の展開がほぼ一貫している	C 論旨あるいは論理の展開に一貫性があるとは言えない	D 論旨あるいは論理の展開に一貫性がない	
研究課題と結果・考察との整合性	A 研究課題と結果・考察は、きちんと整合性が取れている	B 研究課題と結果・考察は、概ね整合性が取れている	C 研究課題と結果・考察は、ある程度整合性が取れている	D 研究目的と結果・考察との間に、整合性が取れていない部分がある	
結論の妥当性	A 結論に飛躍がなく、分析(研究)から明らかになった結果を整理し、専門知識に基づき結果を論理的に考察している	B 結論は、分析(研究)から明らかになった結果と言うことができ、結果の考察も説得力がある	C 結論は、分析(研究)から明らかになった結果かもしれないが、結果の考察に説得力がない	D 結論は、分析(研究)から明らかになった結果とは言い難い	
得られた知見の社会的貢献の明示	A 得られた知見に対する学術的または社会的貢献が、十分に明示されている	B 得られた知見に対する学術的または社会的貢献が、明示されている	C 得られた知見に対する学術的または社会的貢献が、十分に明示されているとは言えない	D 得られた知見に対する学術的または社会的貢献が、明示されていない	
残された課題と今後の展望	A 残された課題と今後の展望について、説得的に記述されている	B 残された課題と今後の展望について、記述されている	C 残された課題と今後の展望について、記述されているが、十分とは言えない	D 残された課題と今後の展望について、記述されていない	

⑤論文作成能力

評価項目	A	B	C	D	評価理由
記述法・ルール	A 学術的な記述法で書かれ、当該分野の学会における一般的な執筆規定に従っている	B 学術的な記述法で書かれ、当該分野の学会における一般的な執筆規定にほぼ従っている	C 学術的な記述法で書かれたというには不十分で、当該分野の学会における一般的な執筆規定に従っていない部分がある	D 学術的な記述法で書かれておらず、当該分野の学会における一般的な執筆規定に従っていない	
結果の表現	A 結果を表現するために、適切な図表等が作成・配置されている	B 結果を表現するため、概ね適切な図表等が作成され、ほぼ問題なく配置されている	C 結果を表現するために図表等が用いられているが、必要とはいええないものがあったり、ないために理解しにくい箇所がある	D 結果を表現するために必要な図表等がほとんど作成されていないため、理解しにくい箇所が目立つ	
注記	A 注記により、本文が冗長になることを避け、本文が適切に補足説明されている	B 概ね適切に注記されているので、本文が冗長とは言えず、本文が概ね適切に補足説明されている	C 注記が適切とは言えず、本文が冗長に感じる、あるいは必要な補足説明のない箇所がある	D 補足説明でよい記述が本文にある、あるいは本文に記述すべき説明が注記されている	
タイトル	A 内容を簡潔かつ明瞭に表している	B 内容を概ね簡潔かつ明瞭に表している	C 内容をある程度簡潔かつ明瞭に表している	D 内容との間に整合性を欠く部分がある	
章立て(部・章・節・項)と論文の読みやすさ	A 章立てが適切であるため、読みやすい	B 章立ては概ね適切で、読みにくいと感じない	C 章立てに不適切で、読みにくい箇所がある	D 章立てが不適切であるため、読みにくい	
要旨	A 本研究の背景、議論や分析の進め方、主な結論が、簡潔かつ明確に示されている	B 本研究の背景、議論や分析の進め方、主な結論が、概ね簡潔かつ明確に示されている	C 本研究の背景、議論や分析の進め方、主な結論に、理解できない部分、あるいは簡潔化できる部分がある	D 本研究の背景、議論や分析の進め方、主な結論が、理解できない、あるいは冗長	
誤字・脱字	A 誤字・脱字の無いことがほぼ完全に確認されている	B 誤字・脱字の無いことが十分に確認されている	C 誤字・脱字の無いことの確認が十分とは言えない	D 誤字・脱字が目立つ	
引用	A 筆者のオリジナルな見解でない記述の出典は全て引用され、引用箇所の明示、あるいは引用内容は正確	B 筆者のオリジナルな見解でない記述の出典は全て引用され、引用箇所の明示あるいは引用内容が不正確な部分は見当たらない	C 筆者のオリジナルな見解でない記述の出典は全て引用されているが、引用箇所の明示、あるいは引用内容に不正確な部分があるかもしれない	D 筆者のオリジナルな見解でない記述の出典を引用していない部分がある	

⑥学術的価値

評価項目	A	B	C	D	評価理由
成果の水準	A 当該分野において、これまで解決できなかったことを解決する知見、あるいは新しい事象の発見を提供している	B 当該分野において有意義な知見や発見を提供している	C 得られた知見が、当該分野において有意義なものといえるかどうか、やや疑問が残る	D 当該分野において有意義な知見が得られたとはいえない	
社会への貢献	A 研究によって明らかとなった知見を関係者に実践的に役立ててもらえることができる	B 研究によって明らかとなった知見を関係者に役立ててもらえるかもしれない	C 研究をさらに発展・深化させなければ、研究によって明らかとなった知見を関係者に役立ててもらえることはできない	D 関係者に役立ててもらえるような成果は得られなかった	
研究者としての自立	A 近い将来、自立した研究者として、当該分野の中で注目される研究ができる	B 近い将来、指導教員など他の研究者との共同研究ならば、当該分野の中で注目される研究ができる	C 近い将来、指導教員など他の研究者との共同研究ならば、当該分野における研究を継続できる	D 指導教員など他の研究者の助けがあったとしても、当該分野における研究を継続することは難しい	

⑦成果の公表

評価項目	A	B	C	D	評価理由
成果の公表	A 前期課程および後期課程在学中に、博士論文の内容に関連し、申請者を主な著者とする査読論文があり、学会報告を行ったことがある	B 博士論文の内容に関連し、申請者を主な著者とする公刊論文、Working Paper またはDiscussion Paperがあり、前期課程および後期課程在学中に、学会報告を行ったことがある	C博士論文の内容に関連し、申請者を主な著者とする公刊論文、Working Paper またはDiscussion Paperはないが、前期課程および後期課程在学中に、学会報告を行ったことがある。あるいは、学会報告はないが、公刊論文、Working Paper またはDiscussion Paperの1本以上の発表およびその論文の報告会を行ったことがある。	D 博士論文の内容に関連し、申請者を主な著者とする公刊論文、Working Paper またはDiscussion Paperはなく、学会報告も行っていない	